

会 長 あ い さ つ

宮崎県校長会会長 会長 湊 正

陽春の折 ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

令和5年度の宮崎県校長会会長としてご承認をいただきました宮崎市立住吉中学校校長の湊正です。

この3月末の定期異動により、小中学校で73名の先生方がご勇退をされました。そして新たに、小学校35名、中学校20名の先生方が校長に採用され、また、21名の先生方が県教育委員会より転入されました。この度の校長就任を心よりお喜び申しあげます。これまでに培ってこられた経験と力量をもとに、新たな感覚で学校の経営にご尽力くださいますようご期待申し上げます。

ところで、令和3年1月に、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』について、中央教育審議会の答申が示されました。個別最適な学びと協働的な学びの実現を図るにあたって、学校における働き方改革やGIGAスクール構想の推進、新学習指導要領の着実な実施、学校教育を社会に開かれたものにしていくことなどが重要であると述べられました。

また、国が令和5年に、「第4期教育振興基本計画」を策定することから、宮崎県においても、宮崎県総合計画が策定されることを踏まえ、「宮崎県教育振興基本計画」の（素案）が示されています。

このように、教育は、時代とともに改革がすすめられています。こうした変化の激しい時代の中で、ますます求められるのが、校長のリーダーシップだと思います。

いじめや不登校、ヤングケアラーなど、子供の現状は多様化・複雑化しています。また、保護者等からの多様な要求も多くなるなどの様々な課題があり、その解決に苦心している学校も多いことと思います。SNS利用は、その利便性とは裏腹に、大きな影を落としている状況があります。また、講師任用や、特別支援学級に在籍する児童生徒の増加などの課題もあります。

このような課題に対しまして、県校長会としても、これまで以上に県教育委員会、市町村教育委員会と具体的に連携をして、一体となって取り組んでいかねばならないと考えます。まずは、その最前線にいる私たちが、今まで以上に、校長同士の連帯感、結束力を強化する必要があります。情報交換や相談ができ、助けあえる仲間がいる校長会。存在意義がある校長会。そのような校長会でありたいと願っています。校長が、自分一人で問題を抱え込むことなく、県内331名の会員が心をつなげて、立ちはだかる課題を解決していかなければなりません。校長先生方お一人お一人の後ろに、市町村校長会・支会校長会があり、県校長会があることを感じられるような組織を創っていかねばならないと考えております。今後とも、各校長先生方のご理解とご協力をお願いいたします。